

分担研究報告書

診療水準の向上：高齢 CKD 患者、透析・移植後患者の COL 維持向上

研究分担者 酒井 謙 東邦大学医学部腎臓学講座 教授

研究分担者 祖父江理 香川大学医学部 講師

研究要旨

高齢CKD患者、透析・移植後患者のCOL維持向上について、特に移植後患者のQOLの実態調査を行った。また高齢 CKD 患者においては、透析を行わない選択も国内で散見され、台湾の末期腎不全緩和医療ガイドの翻訳改定も行った。

A. 研究目的

移植患者の就労状況を含むQOL調査（感染不安、通院、ACP、年収、怠薬、後発品使用）を行った。

B. 研究方法

調査主体をNPO法人日本移植者協議会に委託し、調査票作成をWG（日本腎臓学会 祖父江、酒井）で行った。

（倫理面への配慮）

日本移植者協議会では、5年前同様のアンケート調査をすでに行っており、今回はその経年続報として、移植者協議会主体のアンケート形式をとった。

C. 研究結果

調査時期は2023年11月で、腎移植患者回答数146件で、男女比76:69、60~70歳代の回答100例（68%）であった。移植後の生活の向上が90%以上の回答者で認められた。就労状況は、就労39人、非就労83人で、就労者のうち正社員：非正社員は3:2、就労日数は週5日が多くを占めた。

障がい者枠使用は15例、非使用は40例であった。年収は100万円未満2例、300万未満22例、500万未満11例、1000万未満14例であった。（移

植者就労状況については両立支援に関する基礎データとして、腎疾患政策研究事業 中川班研究23FD1003と合同して報告予定である。）

また高齢CKD患者においては、透析を行わない選択も国内で散見され、AMED先行研究で、「高齢腎不全患者の保存的腎臓療法-conservative kidney management(CKM)の考え方と実践-」が刊行されている。我が国では、保存的腎臓療法の緩和ケアの指針はまだないが、台湾の末期腎不全緩和医療は、ガイドラインが存在し、その翻訳改定版作成も併せて行った。

E. 結論

QOL向上に資する移植医療であるが、非正規雇用形態・年収等にまだ問題を含む結果と解釈された。

G. 研究発表

1. 論文発表
なし

2. 学会発表
※2024年の日本腎臓学会・日本移植学会で発表予定

H. 知的財産権の出願・登録

該当なし